



カウナス、リトアニア | 2022年5月18日

リトアニアのカウナス市議会は、多目的グランドホールミーティングスペースを約17年前の音響システムからRenkus-Heinzの音響ソリューションで更新することを決定しました。

リトアニアの経済、学術、文化の中心地であるグランドホールは、1940年代のモダニズム建築である市庁舎内にあり、スタンドグラスの天井やガラスのアートウォールなどユニークな要素を備えているため、聴衆や議員にとって音響上の課題がありました。

カウナス市議会は、多目的会議スペースのための適切なサウンドソリューションの設計と施工をAVインテグレーション会社Audiotonasに依頼しました。Audiotonas社の営業部長であるVytautas Stasiukaitis氏は、市議会が利用者にクリアで適切な音圧を提供するスピーカーソリューションを必要としていると説明しました。Stasiukaitis氏は、均一な音声カバレッジと明瞭度を確保するために、2台のRenkus-Heinz DC12/2 ビームステアラブルコラムを指定しました。

グランドホール内のオーディオシステムは、審議会のAVベースの投票システムをサポートするだけでなく、審議会、ゲストのプレゼンテーション、会議の広報システムとして使用できる柔軟性が必要でした。また、必要に応じてストリーミングビデオを再生したり、審議会の休憩時間にBGMを流したりすることも可能なシステムである必要がありました。Audiotonas社は、会議とその他の使用目的のニーズを満たすソリューションを見つけるため、Renkus-Heinz社のスピーカーに注目しました。

Stasiukaitis氏はこう話します。

「ホールの景観を維持することは、音響レベルの向上や聞き取りやすさの向上と並んで重要なことでした。」

「たった2本のRenkus-Heinz DC12/2 ビームステアラブルコラムで、ホール全体が見事にカバーされ、美観にマッチしています。」

美しくデザインされた約300平方メートルのオール・デコ調のホールは、何層にも重なったスタンドグラスの天井と、会議席の後ろにあるホール正面の大きなスタンドグラス・アート壁が特徴。3段のコの字型の会議用テーブルセッ



トがスペースの中央を埋めている。音響システムを設計する際、新しいスピーカーが音を天井や壁の上部から遠ざけ、代わりに審議会メンバーや参加者、聴衆に向けて集中させることができることが重要でした。

Renkus-Heinzのビームステアリング技術により、DC12/2スピーカーはグランドホールの音をしっかりとコントロールし、オーディエンスにしっかりと音を届けることができます。Renkus-Heinzのデジタルステアリングスピーカーシステムは、タイトで非対称なサウンドビームを出力することで、全ての聴衆に最高のサウンドを届けることができます。

Renkus-Heinzヨーロッパテクニカルセールスマネージャー、Michał Poplawskiはこう話します。

「DC12/2アレイは、エレガントなホールの美観を保ちながら、市議会の音響設備アップグレードの要求を満たす最適なソリューションでした。」

「市議会は音質とカバレッジに非常に満足しています。」

「これが、私たちがRenkus-Heinzを採用する理由です。」

本記事はRenkus-Heinz Case Studiesから転載しています。

